

■単元名

6年 視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう 「帰り道」

■単元の特徴(ねらい)とデジタル教科書・教材の活用について

本教材の特徴は、同じ出来事について場面を分けて異なる登場人物の視点から語られている点にある。児童は、それぞれの視点で語られた内容に関連付けながら読むことで、登場人物の人物像を深く考え、登場人物の心情や関係の変化を総合的に捉えることができる。ここでは、視点によって物事の捉え方が変わることを知り、複数の叙述を結び付けて人物像を具体的に想像する力を身につけさせたい。そのために、マイ黒板を用いて視点ごとに人物像につながる表現をまとめて整理する。

■指導計画例（全4時間）

学習活動	◇指導事項・指導上の留意点◆評価規準（評価方法）	デジタル教科書の活用例（数字は学習活動の番号）
<p>①「律」と「周也」の帰り道にどんなことが起こりそうかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全文を読み、作品の特徴を考える。 単元目標や学習計画を確かめる。 	<p>◇登場人物どうしの関係に着目して作品を読む意欲をもつこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> 視点の違いに着目して読み、二人の関係の変化を捉えようとしている。 	<p>・<導入ワーク>を視聴する。(①)</p>  <p>・「きく」で、朗読を再生する。(①)</p>
<p>★②それぞれの人物像を考え、一文で表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の読みを確かめる。 「律」と「周也」の人物像を考えるための叙述に線を引く。 	<p>◇新出漢字を正しく読むこと。</p> <p>◇さまざまな表現を基に人物像を表すこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書に手がかりとする叙述に線を引かせてから、教師が「マイ黒板」で集約する。 「言葉の宝箱」を提示し、人物像を表す語彙を広げるようにする。 ◆ 会話文や心内語など、複数の叙述を抜き出して人物像を捉えている。 ◆ 進んで視点の違いに着目し、二人の人物像を自分が選んだ言葉で表現している。 	<p>・<フラッシュカード>で、声に出して読む。(②)</p>  <p>・「マイ黒板」で、言葉を抜き出す。(②)</p> 
<p>③「律」と「周也」の心情や感情の変化を確かめる。</p> <p>・この後、登場人物の関係がどのように変化したのかを想像する。</p>	<p>◇関係の変化と、そのきっかけを振り返ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「マイ黒板」を使って二人の距離の変容を図示し、「天気雨」をきっかけに登場人物の心情や関係が変化することを押さえ、その後の展開に意識を向けさせるとよい。 ◇心情や関係の変化を踏まえて、物語をより味わうこと。 ※人物同士の関係に焦点化して振り返り、転機を捉えるために時系列順で図表化する。 ◆これまでの学習を基に、今後の二人の関係や具体的な出来事を想像している。 	<p>・<大体の内容を確かめるワーク>を使い、心情と二人の関係の変化を書き込む。(③)</p>  <p>・「マイ黒板」で、心情の変化を図表化する。(③)</p> 
<p>④作品の感想を書く。</p> <p>・グループで感想を読み合い、感じたことを伝え合う。</p>	<p>◇作品の特徴を踏まえて、感想を書くこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <インタビュー動画>を視聴し、視点や構成等、作者の工夫に目を向けさせてもよい。 ◆物語の内容や書かれ方など観点を決め、感想を書いている。 	<p>・<森さんにきくーこの物語を書いた思い>を視聴する。(④)</p> 

■第2時の指導案

【本時のめあて】

「律」と「周也」それぞれの視点から人物像を捉える。

【評価】

- 会話文や心内語、情景など複数の叙述に着目し、人物像を捉えている。
- 進んで視点の違いに着目し、二人の人物像をさまざまな言葉で表現している。

学習活動	◇指導上の留意点 ◆評価	デジタル教科書の活用例（数字は学習活動の番号）
<p>①単元の新出単語を声に出して読む。</p> <p>②本時のめあてを確認する。 「それぞれの視点から人物像をとらえよう」</p>	<p>◇ 新出漢字数が多いため、声に出して読み、慣れていく。「自分でめくる」を選択しておき、反応を見ながら読みを表示したり、「もう一回」を選択し、覚えにくい漢字を繰り返し表示したりする。</p> <p>◇ 前時に学習した「視点」に注意して取り組むことを強調する。</p>	<p>・<フラッシュカード>を用いて、新出漢字の読みを確かめる。(①)</p> 
<p>③「律」「周也」の人物像を考える手がかりとなる叙述に線を引く。</p> <p>④「律」「周也」それぞれの視点から発表し、一つの性格であっても自分自身の捉えと相手にとっての捉えが異なることに気づく。</p> <p>⑤叙述を基に人物像を考える。</p> <p>⑥それぞれの人物像を一文でまとめる。</p>	<p>◇ 行動描写や会話文等、登場人物のものの見方や考え方が分かる表現を見つけ、線を引かせる。活動に先立って、線を引く表現を例示するとよい。</p> <p>◇ 線を引いた表現を発表させる。教師は発表された部分を指差し、その表現に引いたかを確かめながら「マイ黒板」で抜き出す。</p> <p>◇ まず、「律」については「1」から、「周也」については「2」から抜き出す。次に、別の場面から相手に対する評価を抜き出し、視点によって見方が異なることを理解させる。</p> <p>◇ 根拠となる叙述を示してから、児童の発表した人物像の表現を板書する。「言葉の宝箱」<人物を表す>を拡大提示し、表現を選ばせるとよい。下学年の表現から確かめていくとよい。</p> <p>◇ 視点によって捉え方が異なることを分らせるため、「●●だが、○○な人物。」と文の型を示す。</p> <p>◆ 会話文や心内語、情景など多くの叙述を手がかりにし、人物像を捉えている。</p> <p>◆ 進んで視点の違いに着目し、二人の人物像をさまざまな言葉で表現しようとしている。</p>	<p>・教科書画面に、登場人物の人物像を考える手がかりとなる叙述に線を引く。(③)</p>  <p>・「マイ黒板」で、視点ごとに色や配置を区別して示す。(④)</p>  <p>・「言葉の宝箱」<人物を表す>を表示し、人物像を表すときに用いる表現を確かめる。(⑤)</p> 
<p>⑦学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>◇キーワード「視点」「人物像」を入れてまとめさせる。</p>	